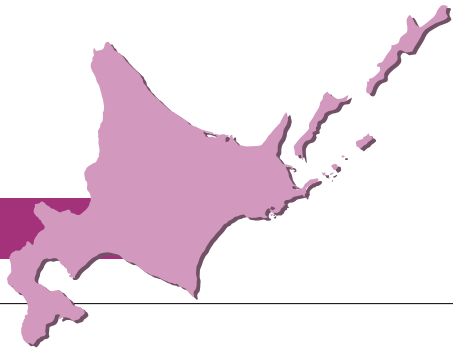
8月の道内景況　情報連絡員レポート

改善傾向維持できず　主要DI値が軒並み悪化

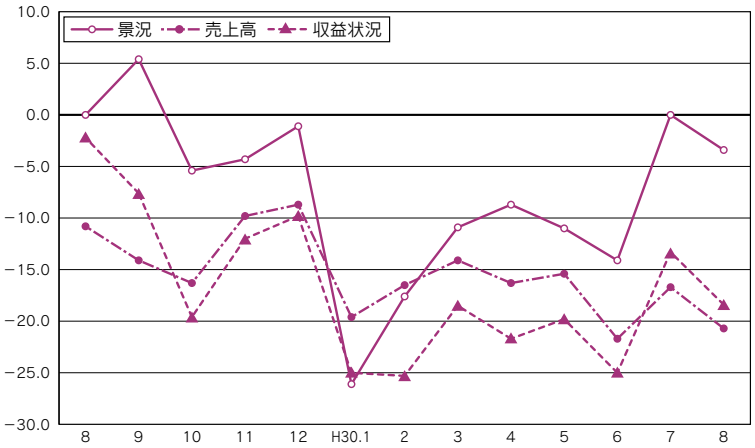


概　況

主要DI値が、全てにわたって前年同月を大きく下回った。

業種別に見た前月との比較では、製造業では全項目で悪化し、特に「収益状況」が大幅に悪化した。非製造業でも、製造業に比べると小幅ではあるものの全項目で悪化し、特に「取引条件」が大幅に悪化した。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比
業界の景況	△16.7	△20.7	△4.0 ↘	△15.2	△24.2	△9.1 ↘	△17.5	△18.5	△1.0 ↘
売上高	0.0	△3.4	△3.4 ↘	0.0	△6.1	△6.1 ↘	0.0	△1.9	△1.9 ↘
収益状況	△13.3	△18.4	△5.1 ↘	△12.1	△24.2	△12.1 ↘	△14.0	△14.8	△0.8 ↘
販売価格	7.8	5.7	△2.0 ↘	6.1	3.0	△3.0 ↘	8.8	7.4	△1.4 ↘
取引条件	0.0	△8.0	△8.0 ↘	0.0	△9.1	△9.1 ↘	0.0	△7.4	△7.4 ↘
資金繰り	1.1	△3.4	△4.6 ↘	3.0	△6.1	△9.1 ↘	0.0	△1.9	△1.9 ↘
雇用人員	△13.3	△17.2	△3.9 ↘	△9.1	△15.2	△6.1 ↘	△15.8	△18.5	△2.7 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・原材料価格の高止まりが続き、取引条件、収益状況、業界の景況は前年期と比べて悪化している。（水産食料品／全道）
・7月の単月では味噌・醤油とも前年より悪い。1月～6月の累計出荷量で、依然、全国と比較すると道内の動きが悪い。特売価格が下がる傾向も見られ、経営環境は相変わらず厳しい。（味噌・醤油／全道）
・原料不足と価格高で収益は下がっている。値上げの依頼はしているが半年～1年後に伸びている。（水産食料品／函館）
・製材市況は、カラマツは保合。エゾ・トドマツは保合～強含み。原木市況は、カラマツは保合。エゾ・トドマツは保合～強含み。カラマツ原木は、不足感は依然として解消されていない。在庫も1ヶ月を切る工場もある。エゾ・トドマツは、不安は完全には解消されておらず、一部の工場では原木不足が続き回復は見られない。小径材はいまだに不足している模様。在庫は、バラツキがあり、1ヶ月～3.5ヶ月。（一般製材／全道）
・販売価格の見直しで、売上高は前年比を維持しているものの、仕入単価の上昇と生産効率の悪化から収益は昨年より落ちている。（一般製材／幕別）
・8月は長雨のため、内装箱・外装箱の販売が芳しくない。（パルプ・紙・紙加工品製造業／全道）
・公共事業の発注が遅れている。15%程度の削減発注を検討している。釧路地域での公共事業内容は橋梁の修繕が多く、草地改良は例年どおり。道管理河川での代行掘削工事の公募が出ている。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・8月度の出荷数量、売上高については、生コン用を除き、特需を含めた路盤用、上下水道工事などで前年対比増加した。（窯業・土石製品製造業／札幌・砕石）
・自動車と鋳鋼品は普通で、水道資材はやや悪い。建設機械はやや良い。農業機械・一般鋳物は良い。マンホール、上下水道管はやや悪いが、工作機械、建設系は引き続き好調である。資材は中国の輸出規制を背景に値上げが続く。地方では人員不足が顕著である。（銑鉄鋳物／全道）
・電気代や原料費などのコストは上昇しているが、製品価格に反映できていない業種が大半。（金属機械工作／札幌）
・昨年度と比較すると、すべてにおいてほぼ横ばいだった。8月はお盆休暇により稼働日数も少なく、予定以外の受注はなかったようだ。（金属機械工作／江別）
・金属加工業におおむね順調に推移している。政策の影響で農業関連設備が順調に入っている。（金属機械工作／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・天候不順の影響で全般的に一般消費財は不振。建築資材や事務機材は前年の好調から一段落し減収に転じている。靴履物では安全安心志向の強まりで販売単価が上昇、粗利率が改善し収益性は向上している。運賃コストの上昇に対しては物流の効率性を高めることで対応している。（各種商品／札幌）
・当月においては前半の暑さが続いたことにより、流通菓子にとっては苦戦する要因が多かったが、なんとか前年推移は維持できた。しかし特に物流コスト増が響いてきており、収益性は厳しい。（菓子／全道）
・天候不順の影響か休日の売上が伸びなかった。その中で季節的商品の動きが堅調でイベント関連、スポーツ・趣味関連、自動車関連、飲食関係、ペット関連、交通・旅行等が売上を伸ばした。ガソリン価格の落ち着き感もあるが生活関連（燃料費項目）の上昇が継続している。（各種商品／札幌）
・8月は好天であったが例年にない暑さで、高齢者は外出を控え衣料品の売上が伸び悩んだ。家電量販店は冷房や扇風機等の売上が好調で、前年より売上が伸びた。業界としては銀行系カードローンの過剰貸付の影響から、債務整理が増えている傾向が見られるのと、様々な決済代行業者等のプレイヤーが増え、競争が激化している。
収益に於いては、セキュリティ強化で設備投資した減価償却費の増加と融資落込みよる収入の減少で昨年より悪化が続いている。（各種商品／旭川）
・普通車の登録車は前年から減少したが、軽自動車は大きく上回り、合計は前年同月比4.2%増の1281台となった。合計が前年を上回るのは5ヶ月ぶり。（各種商品／帯広）
・依然として全国的な異常気象が続き、秋が旬の食料品にも大きな影響が出ると思われる。小樽産ウニも店先に全然並ばない日もあり、値段も高い。（各種商品／小樽）
・8月取扱高は、前年比100%の状況。今月は天候に恵まれたが景気は上向きとは言えない。苫小牧の中心商店街は、イベント開催でいつもより人通りが多く活気がある。これからのイベントにも期待したい。（各種商品／苫小牧）
・8月の各組合員の状況ですが、天候不良等の影響もあり、釧根地区全体では7月同様に厳しい状況が続いていると各組合員の声が多く聞かれた。（各種商品／釧路）
・8月は観光客の増で売上が良かった。魚の入荷はさんま、鮭が今年は良いようだが、入荷してみないと判断はできない。（各種食料品／札幌）
・小売店の販売価格は8月元売価格ほぼ横ばいから大きな変動はなかったようだが、量販店の安値攻勢により従来同様厳しい利益口銭にて推移しているようだ。（燃料小売業／旭川）
・組合の昨年比は102%と微増だが、一部スーパーの店舗リニューアル（今年の四月に改装）が販売好調でその影響と思われる。全体的には気候不順であり客数が伸びなかった。（家電業種ではクーラーの売上は昨年の半分とのこと）
倒産1店（印刷）／開店1店（パン屋）（燃料／芦別）
・原油価格が一時高騰し、卸価格が上がったにもかかわらず、依然、末端市場においては価格競争の激化傾向が続いており、特に激戦地の安値市況が広範囲に拡大していることが、中小零細企業の経営を圧迫している状況。また、店頭マージンの低位安定が続いており、低燃費車に乗り換えた顧客が一層目立つようになったこと等もあり、危機感をあらわにする販売業者も多く見受けられる。これまで同様、廃業・撤退の選択を迫られる地元業者も増加しており、特に相当年経過した地下タンクを保有している事業者にあっては、後継者問題、従業員の雇用問題等を含め、厳しい選択を迫られている状況が窺える。（燃料／全道）
・8月の道内家電販売は一時、気温が上がったものの、エアコン、冷蔵庫などの季節商品が期待外れに終わった。本州、特に西日本は台風被害によりエアコンは品薄状態、道内もその余波で品薄傾向、単価は暖房エアコンなどの普及で上昇傾向にあるが台数が伸びず、昨年に比べ売り上げは減少。（電気機械器具／全道）
・藤丸百貨店の7月売上高は、4億6,510万円（前年同月比11.2%減）。
共通駐車券の利用は、前年比91.3%、買物共通バス券の利用は、前年比77.3%に減少。（商店街／帯広）
・働き方改革は休日の増加、労働時間の短縮など、決して働きやすい環境づくりだけが目的ではなく、押し寄せる少子高齢化と生産年齢者数の漸減の中で、業務の効率化を進めて生じた時間を活用していかに生産性を高めるかが重要なポイントである。人手不足が叫ばれる道内IT業界では労働時間の抑制（残業抑制）や有給休暇の取得が目立つ程度で、「テレワークの導入」や「勤務間インターバル」への取組はこれからといった企業が多い。道内の中小IT企業は大企業と比べて労働時間の見直しが受注や賃金の減少に直結する傾向が高いことから、抜本的な働き方改革への具体策実施については大きな課題を抱えているのが実情である。（ソフトウェア／全道）
・8月の十勝川温泉宿泊入込数は36,520人　全年度比－1,061人、97%でした。　観光客は昨年比　道外は91%、インバウンドは106%でした。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・人材不足と材料仕入単価の上昇傾向は変わらないが、売り上げや引き合いは増加傾向にあり業況は若干好転しているものと見受けられる。（左官工事／全道）
・組合員の業況
8月は神社祭お盆と続き、また暑い時期でもあるため従業員の健康管理も含め、休暇を長めに取る組合員がほとんどで、天候にも恵まれ工事は順調に進捗していることから、リフレッシュ休暇となったことと思う。
問題点
8月末、9月始に発注予定の工事が告示されたが、これで発注率が9割超となり秋枯れの様相となってきている。
地域の実情
補正予算による土木工事等の発注により、やや建設業に活気が戻った感があるが、基幹産業の農業が豊作であれば、全体の消費が伸びてくることから、これから台風や低温被害等災害に対応できる準備が求められる。また、水道料金改定の報道があり、平成31年度に向けて準備が進められている。（管工事／名寄）
・団塊世代を中心とした脱退が急増している。インボイス制度が導入される平成35年を待たずに赤帽組合員は個人事業主の身分であるため契約を解除、もしくは本部経由に変更させられることが発生している。赤帽（協）としてはインボイス制度に乗っかり「無所属のかたは赤帽に加入を」と組合員増員に追い風となることを期待している。（一般貨物自動車運送／全道）
・（荷動きについて）
軟弱野菜の出荷量は引き続き長雨の影響で芳しくない。大根等の出荷量減少が大きい。人参についても産地間の差はあるものの出荷状況は昨年よりも悪化している。馬鈴薯・玉葱については現在までは順調。
一般カーゴについては、昨年並み。ただし、農産物の悪化からか北海道発の車両は若干滞留がみられた。域内輸送は、気温や天候の良しあしで動きにも波がある状況。飲料等に影響が出ている。その他の貨物は台風での影響以外はほぼない。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比4.1%減少
乗務員数は前年同月比6.6%減少
7月分チケット取扱高は前年同月比6.2%減少（一般乗用旅客／旭川）
・多発した台風の影響で売上高が激減。（一般乗用旅客／苫小牧）